

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No.

36

2013年5月発行

今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

2012年度事業報告 + 情報提供

2012年度は、障害児者とその家族に対する相談支援、障害児の地域生活支援、まちづくりの推進、子育て支援、生涯学習講座の講師などを行いました。前年度に続き、障害をもつ子どもの自立に向けた支援「未来に向かってチャレンジ ～障害児の自立に向けて～（大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成）」を中心に活動しました。詳細は会報にて報告してきましたが、昨年度の活動の全体をご報告します。あわせて、『お役立ち情報』も掲載しますので、ご参考にしてください。



1. 障害児者とその家族に対する相談支援事業

① 障害児者とその家族の相談支援

障害者自立生活センターや障害者相談支援センターと連携して相談に対応しました。

② 旭区自立支援協議会への参加

☞ 障害当事者および家族・関係者のための「なんでも相談会」

第3火曜日午後2時～4時 旭区役所（変更の場合あり）。予約不要。無料。

主催 旭区自立支援協議会 【問合せ】旭区役所地域福祉 06-6957-9857

☞ 旭区自立支援協議会では、社会資源マップの作成、旭福興市の開催などをしました。

社会資源マップをお役立て下さい！旭区役所2階28番窓口にあります。

相談支援部会や子ども部会の活動も行なっていますので、区民の皆さんのご意見をお寄せ下さい。

③ 大阪府自立支援協議会障害者ケアマネジメント推進部会への参加

「大阪府相談支援ハンドブック」の作成に協力しました。ほうぷが取り組んできた

「子どもからはじめる個人将来計画」が、アセスメントツールの例として取り上げられました。

☞ 「大阪府相談支援ハンドブック」は大阪府ホームページで閲覧できます。

ご意見・ご要望をいただきながら、完成度を高めていくようです。ご活用ください！

<http://www.pref.osaka.jp/chiiikiseikatsu/shogai-chiki/soudanshienshandbook.html>

2. 障害児の地域生活支援事業（障害をもつ子どもの自立に向けた支援事業）

「未来に向かってチャレンジ！～障害児の自立に向けた支援～（大阪ガスグループ“小さな灯”運動『子ども支援市民活動助成プログラム』）」を継続的に取り組みました。

① 「自立生活プログラム・子ども版」実践報告会&学習会開催

【日時】6月16日13:30～16:00

【会場】大阪市立城北市民学習センター 講堂

【参加者】障害児の保護者、障害者自立生活センターのスタッフ、障害当事者、教育・福祉職、旭区老人クラブ連合会の方々をはじめとする地域住民(参加者86名)

【内容】「はじめよう!『自立生活プログラム・子ども版』(H23年度発行)を資料として配布。スライドを用いて子どもたちの活動報告を行い、西成区で行なわれている職場体験活動について講演いただきました。最後にグループディスカッションを行いました。

② 「クッキングをしよう!」開催

【日時】8月30日13:30～15:30、9月8日11:00～15:00

【会場】大阪市立旭区民センター 集会室・調理室

【参加者】障害児者(のべ14名)、ボランティア(のべ19名)、スタッフ(のべ13名)

【内容】オリジナルの巻き寿司をデザインし、食材の買物と調理に取り組みました。「自立生活センター・あるる」「大阪工業大学ボランティア教育研究会」と合同で企画・開催し、障害当事者の先輩たちとかかわる機会にもなりました。

③ 「音楽で遊ぼう～クリスマスイベント～」開催

【日時】12月24日13:30～15:30

【会場】大阪市立城北市民学習センター 研修室 【参加者】障害児10名

【内容】昨年度まで実施してきた「音楽広場」の講師(音楽療法士2名)を招いて、子どもたちが珍しい楽器を使ってクリスマスソングの演奏を楽しみました。

④ 研修会「障害をもつ子どもの将来の“すまい”について考える」開催

【日時】12月24日13:30～15:30

【会場】大阪市立城北市民学習センター 会議室 【参加者】障害児の保護者8名

【内容】障害者自立生活センターのスタッフなどを講師として招き、グループホームの運営方法や生活の様子について伺い保護者が子どもの将来を考える機会をもちました。

⑤ 個人将来計画の作成と実践

【日時】作成会議4月24日、実践は随時

【会場】作成会議は市民交流センターあさひ東 集会室、実践は大阪市内随所

【参加者】作成会議：関係者支援者(15名)

【内容】「子どもからはじめる個人将来計画」の作成と実践に取り組みました。

3. まちづくりの促進—旭区地域福祉計画「あさひあったかまちづくり計画」の推進協力

① 「あさひあったかまちづくり計画」をすすめよう会 定例会への参加

② 地域住民の交流の場「あさひあったかきち」の運営委員として地域活動に参加

③ 「障がい児者班」にて、地域住民に障害児者への理解をすすめるチラシの作成・配布

☞ 会報P3をご参照ください!



4. 子育て支援事業

- ① 旭区子育て支援関係団体の集まり「あさひの輪」、
あさひ子育てネットワーク「きしゃぼっぽ」への参加
☞ 「あさひ子育て情報」(2013年度版)が発行されています。
(発行：旭区保健福祉センター子育て支援室、旭区子ども子育てプラザ、旭区社会福祉協議会) 旭区内の公共機関などに置かれています。お役立て下さい！
- ② 「子育てトーク事業」(旭区社会福祉協議会主催)への参加
☞ 今年度も、5月～8月に旭区在宅サービスセンターで開催されています。(要予約)



あさひあったかまちづくり計画

障がい、児者班の取り組み ともに暮らすまちづくり

「障害(児)者のことを理解してください」

チラシを作成し、配布を始めました！

お店で、公共機関の窓口で、病院や診療所で、あるいは、まちの中で、心ない言葉や対応で、障害児者の人権が傷つけられていることがあります。おそらく悪意をもっている人はいなくて、障害児者のことを知らないがために起こっていると思います。そこで、「あさひあったかまちづくりをすすめよう会」障がい児者班では、障害児者のことを知ってもらい、障害者一人ひとりにちゃんと向きあえるまちにしようと、区内の商店会の方々にアンケートにご協力をいただき、それをもとにチラシを作成しました。地域住民みんなで取り組むことができればと思います。お手元に届きましたら、ぜひ読んでいただき、「ともに暮らすまちづくり」にご協力ください。チラシは、旭区保健福祉センター(旭区役所2階)、旭区社会福祉協議会、あさひあったかきちに置いてあります。

公共機関の方へ

あさひ
しょうがい
しょう

介助者ご
介助者の
相手の年齢
わかりやす
いけいけい
のよう

Q. どのような手助
困りました。

A. 「何かお
どんな

Q. 声をかけたの
A. 後ろから
位置

発行：あさひあ
事務局：旭区役所

商店の方へ

あさひ あったか まちづくり

しょうがいのある人も暮らしやすいまちづくりに
取り組みませんか？

☞ 介助者と来店した場合、まず本人に話しかけるようお願いします。
介助者の協力を求める時は、本人の同意を得たうえでお願いします。

☞ 相手の年齢に応じた言葉で話さずようお願いします。
わかりやすく、具体的な言葉でお願いします。

☞ いけいけ(ダメ)と言うだけでは伝わらないので、なぜいけいけなのか、
どのようにしたらよいか、わかりやすく伝えるようお願いします。

こんな時には…？

*商店会の皆さま、アンケートにご協力ありがとうございました。
困ったこと、質問に対して、Q&Aを記載しました。参考にさせていただければ幸いです。

Q. どのような手助けをして、どこまでお手伝いしたらいいかわからなくて
困りました。手助けしたつもりが、気を悪くされてしまいました。

A. 「何かお手伝いすることはありますか？」と声をかけてください。
どんな配慮をすればよいか、ご本人に教えてもらうのが一番です。

Q. 声をかけたのですが、無視されてしまいました。

A. 後ろから声をかけたのでは、伝わらない場合があります。顔の見える
位置で話しかけましょう。本人に向かって話してください。

発行：あさひあったかまちづくり計画をすすめるよう会 しょうがい児・者班
事務局：旭区役所保健福祉課(地域福祉)・旭区社会福祉協議会

こんなお店もあります

☞ 筆談や身振りで会話しています。

☞ 車イスが中に入りにくいので、店の前まで行き、対応しています。

☞ 同じ目線で、相手をよく見ながらゆっくり聞いて、数は指で表して確認しています。

ワンポイント手話レッスン♪

ありがとう

こんにちは

こんなマークがあります♪

ほじょ犬マーク 耳マーク 車イス対応トイレOKマーク

ほじょ犬
Service Dogs Welcomed
法律により盲導犬・介助犬・
警備犬は必ず声を聞き
て行動してください

聞こえが自由なことを表す。

このマークの貼ってある施設には、
車イス対応のトイレが設置されて
おり、車イス利用者が利用すること
ができます。

障害をもつ子ども達の大学進学

ほうぷでは、「障害をもつ子ども達の義務教育修了後の進路について」の研修会を開催して、進路の情報提供を行ない、先輩たちの体験談を話していただいて意見交換などをしてきました。研修会を始めた頃、中学生だった子どもたちは成長し、現在、聴講生や科目等履修生として大学に通学している子どももいます。今回は、大学に通っている4名の子どもたちの保護者に、進路選択や大学生活の様子をうかがいました。知的障がい生徒自立支援コース、特別支援学校高等部、定時制高校など、様々な高校から大学に進んだ子どもたちです。高校入学以上に、大学入学には高く厚い壁があります。ご紹介する4名の子どもたちは、言葉や文字で自分の意見を表現することの難しい子どもたちです。彼ら彼女らが大学に通い始めるまで、大変な道のりだったことは言うまでもありません。「障害があっても大学に行きたい！」障害児は、高校入学と同じように、「なぜ、大学に行きたいのか？」から説明をしなければ、大学の門をたたくことさえできないのが現実です。大学という高等教育機関であるにもかかわらず、教員や職員からの差別的な言葉や配慮ない言葉もあったようです。入ってからもいろいろなことがあると思います。理解のある大学に出会えたから、信頼できる教員に出会えたから、そして、何より、友達とともに学びたいという子ども本人の思いを感じ、いきいきと大学に通う子どもたちの姿があるから、今、「良かった！」と思うのです。一事例として終わらせることなく、皆さんのご理解と応援と、後に続いていく子どもたちの存在が、大学も「ともに学ぶ」場にしていくのだと思います。

<Aさん：男子・科目等履修2年目>

息子が地域で当たり前にもともに育つ中で、「障害があるだけで、他の子どもと同じなんだ」と思えるようになりました。そして、自分自身が生きてきた道を振り返り、考えてきたことを思いだし、「息子も大学に行きたいのでは」と漠然と思うようになりました。子どもの成長と地域社会の広がりには深い関係があると感じます。息子は、少しでも長く友達の中で過ごしたいと思っているのではと思い、「今しかできないことを！」と思いました。

高校に入学して、友達との出来事とその夢を現実へと導いてくれました。高校1年の時、卒業遠足が息子の苦手なUSJということを知り、USJを克服しようと、家族やヘルパーと通いつめました。しかし、結局、克服することができませんでした。遠足当日、半ばあきらめて送り出しましたが、帰ってきた時、「ずっと友達と一緒に回れましたよ」と先生に言われ、友達の手を叩いてやっぱりすごいと思いました。また、高校2年から、運動部の公式戦の応援に行きました。ルールも分からないのに、長い時間、見れるのかなと思いました。友達と一緒に手を叩いて応援することが出来ました。その上、今まで全く興味なかったテレビの高校野球中継を見て手を叩いて応援していたのは驚きました。どんな年齢になっても友達の手で成長していくんだと思い、大学に行く思いを強くしました。

しゃべれない、書けない、点が取れない、息子の大学入学はとても大きくて高い壁でした。高校の先生方も大学進学に賛成してくださり、全面的にバックアップしてくださいました。大学を回り話し合いをしましたが、結局、入学はできませんでした。でも、高校の先生方と一緒にいろんな大学の門を叩いたことはとても貴重で良い経験になりました。

あちこちの大学を回り、今通っている大学に出会いました。毎日1コマ（1講座）受け

ています。入学当初は、私が一緒に通いました。若い学生さんの中で恥ずかしいような嬉しいような…。息子は持ち前の笑顔とコミュニケーション力でグイグイみんなに話しかけていきました。そんな日々を重ねる中、一人二人と話をする友だちができ、だんだんと大学生活が楽しくなっていました。ゼミにも入れていただき、懇親会にも参加させてもらい、楽しそうです。サポーター募集のチラシを作り、先生にも助けていただき配りました。2年目の今期は、全て友だちや先輩と一緒に授業を受け、日によっては一緒に昼食をとったり電車やバスで通学したりしています。学校以外でもカラオケに行ったり、焼き肉屋に行ったりと、大学生気分を味わっています。90分という長い時間ですが、頑張っ授業を受けることができているのも、友達や先輩と一緒にだからかなあとと思います。息子はとても楽しそうで、大学に行って本当に良かったと思っています。

<Bさん：男子・聴講2年目>

中学の時、英語の先生が大好きで、英語に興味をもちました。高校へ入学してからも将来、英語の勉強をしたいようでした。高校1年からオープンキャンパスに参加しました。公開授業や体験授業も必ず受けました。しかし、自宅から大学まで車イスで通学しやすい条件の大学が無く、社会福祉の専攻でもよいのではないかと思い、学部の希望を変更しました。オープンキャンパスで、「どうして社会福祉を教える大学が、勉強をしたいという子どもを門前払いするのか～」と悲しい思いを何度もしました。ある大学で、「ワタシトコだけが大学ではないので、〇〇大学(一流と言われる大学)とかへ行かれたら？」などと言われたこともありました。高校の進路の先生も大変驚いて怒っておられました。メゲズにオープンキャンパスに参加して回りました。ある大学の進路相談会で、ある教授が「勉強が好きですか？」と息子に聞いてくださり、車イス使用の学生も受け入れる時代だとおっしゃって、教授会で検討すると思ひもよらない嬉しい言葉をいただきました。そして、その後、その大学のいろいろな学部のオープンキャンパスの公開授業に参加しました。ある授業を受けた時、息子が声を出して笑い、とても興味をもった様子でした。そして、息子は強くその大学を希望しました。高校の進路の先生や担任の先生が話をすすめてくださいました。高校3年の時、受験の仕方や入学後の生活、卒業ができるかなど、何度も会議をしていただきましたが、AO入試の許可がおりませんでした。しかし、聴講生としてぜひ来てくださいと言っていました。

現在、往復2時間の通学で、週2~3日大学に通っています。長時間の授業で大変ですが、興味のある授業、好きな先生の講義を聴き、本当に良かったなと思っています。こんな充実した日々を送れるのも、高校の担任の先生、進路の先生、校長先生を始め、大学の入試課学生課、教授の先生方のおかげです。希望した学部で勉強でき、充実した息子の姿を見て大変嬉しくて感謝の気持ちでいっぱいです。



<Cさん：女子・聴講1年目>

この春から聴講&ゼミ生として大学生活を送っています。大学に行く日だけ、お化粧品をし、普段は履くことのないスカートや、花柄のかわいらしい服を選んでいきます。

娘の進路について、ずいぶん悩みました。おそらく、私の人生で一番悩み迷ったのだろうと思います。健常者と呼ばれる人たちには、いろいろな人生の選択肢があると思います。就職する人もいれば、大学や短大、専門学校に進んで同年代の友達と学ぶ人もいます。進学

する子どもたちは、必ずしも、何かを志しているわけでもなく、何かを専門的に学びたいわけでもなく、ただ単純にあともう少し学生をしたい、社会人になる前にもう少し学生生活を送りたいという人もいます。しかし、障害者と呼ばれる人たちは、ほとんど選択肢を与えられていません。近年、軽度の障害をもつ人には、専科という高校卒業後2年間学べるところがありますが。

学校の先生からは、娘の進路は生活介護か更生施設しかないと言われていました。でも、ホンマに娘は18歳になった途端に「作業」をしたいと思っているのか？ 18歳という若さで「介護施設」で過ごしたいのか？ 私の中でいつもフツフツと何かが沸いている感じでした。娘は友だちが大好きで、一緒に何かに取り組みたい学びたいという思いが人一倍あると感じます。学生生活が高校で終わりかと思うと、とにかく残念でなりません。大学には福祉や教育を学び、志す学生たちがいます。そこに飛び込んでその人たちと「ともに学ぶこと、お互いに本当の生きた学びになるはずではないか！」と思い、動きだしました。一年先に大学に通ってる先輩の存在も大きかったです。

いろんな大学のオープンキャンパスに行き、沢山の先生に会いました。ある大学の帰り、あまりの撃沈と疲労で、もうあきらめようかと思っていたら、娘が「かあか、ありがとう」と言いました。その言葉に支えられ、今日に至ることができました。フツウの道を選んだわけではないのでいろんな苦戦はありますが、これは必ず娘の財産になると信じています。ここに至るまでに沢山の励まし支えがありました。この場をお借りして、感謝をこめて心よりお礼申し上げます。



＜Dさん：女子・科目等履修1年目＞

進路決定は、3年生の終わり(高校生活は4年間)まで迷っていました。親の思いではなく、本人がどう思っているのかを確認したいと思っていたので、なかなか結論が出せませんでした。高校2年からオープンキャンパスに行きました。大学のようすを知るだけでなく、本人に大学がどんな所かを伝える機会にもなりました。また、夜間の高校だったので、昼間に作業所に参加したり職場体験をしたりして、本人の反応を見ました。どこに行っても前向きで楽しそうな我が子を見て、ならば、「大学に行って同年齢の学生を巻き込みながら自立への準備をして、社会人になってもらおう」と決めました。本人と一緒に大学を回り相談しました。「ウチは支援する学生を育てるところですから」と言われる先生や職員がいて、こんな大学が「支援する人・される人」という誤った教育をして学生をダメにしているのでは…と思うことが度々ありました。AO入試にもチャレンジしました。プレゼンテーションと面接でした。パソコンを使ってプレゼンをしました。結果は全て不合格でしたが、娘は毎回、本当によく頑張りました。ある大学は、AO入試選考の教授会で、入学させるべきという意見も多くあったが、卒業が難しいという意見があり入学許可が出なかったと説明までしてくださりました。「この子が入学したらこの大学が変わる」と頑張ってた教授もありました。感謝と同時に、大学入学の壁の高さを改めて感じました。

大学を目指したのは、大学卒業の資格が欲しいわけではなく、大学生活の中でいろんな出会いや体験をして自分らしく生きる道を見つけて欲しいと思ったからなので、とにかく入り込もうと、科目等履修や聴講の道を探しました。学生支援課の対応が良く、知っている先生のおられる大学に決めました。4月から、週に3~4日大学に通い、並行して自立生

活センターの生活介護に通う生活を始めました。大学に入ってみると、歓迎してくださる先生もあれば、入学生と科目等履修生を「区別」したい先生や、高校入試で壁になった「教育における平等」なる言葉を使って分けようとする先生もおられ、平坦な道ではなさそうです。まあ、世の中にはいろんなヒトがいますから、いろんなコトもあるでしょう。それが地域社会で暮らしていくということですから。娘は張り切って楽しそうに通学しているので、とりあえず、これからの娘の生活を楽しみにしようと思っています。

<DVDのご紹介> 「伝える。」

3月17日に、【北村佳那子 関西大学「聴講」卒業記念「伝える。」上映&交流会】という催しがありました。佳那子さんは、社会学部で「聴講生」として、時間をかけてたくさん学びと出会いを重ねてきました。この春、5年間の聴講生活を終了。ゼミの仲間と共に卒業しました。大学では、加納恵子先生の「社会福祉論」「地域福祉論」にて、ゲストスピーカーとして授業する機会をいただき、この授業を「かなこアワー」と加納先生が命名くださいました。一昨年からは、加納ゼミに「特別聴講生」として毎週参加し、ゼミ生の卒業論文にも協力。そのひとつ、ゼミの仲間が卒業論文として制作した映像「伝える。」が上映されました。同年代と成長する楽しさ、人とつながっていく温かさ、障害があってもなくても、共に学び生きることを伝える作品です。上映会当日は、50名を超える参加者でした。このDVD「伝える。」の上映会をしたい方は、以下までご連絡ください。

kanako-news@yahoogroups.jp



今年は、早くに桜が咲いたのに、いつまでも寒い日が続きました。本当の春がなかなか来ないと思っていたら、いきなりの暑さ。気温の変化が大きいですので、みなさん、くれぐれもお身体に気をつけてお過ごしください。

この春、娘が一人立ちを目指して家を借りました。マンションから長屋に移り、町会長さんや民生委員さんをはじめ、ご近所の方々に度々声をかけていただく生活が始まり、改めて、つながりの中で暮らすことの温かさを感じています。

